

「ダクティル鋳鉄」専門の鋳物メーカーとして、産業ロボット部品やACサーボモータ部品、自動車シャーシ関連部品などを手掛ける鷹島鋳造所（緑区橋本台）。ダクティル鋳鉄の特徴である高強度・高靱性という特性を生かし、40年にわたり独自ノウハウを蓄積してきました。多品種小ロットに対応していることも、強みの一つです。自動車向けが5割程度を占める国内鋳造業界のなかにあって、新規開拓にも取り組みながら、価格競争からの脱却に力を入れています。親族内承継で3代目社長として就任して間もない、千葉哲也社長に同社の特徴や将来展望について聞きました。

「鋳物の中でも、ダクティル鋳鉄の製造を専門にされています。ダクティル鋳鉄とはどういうものなのでしょうか。」

「まず、私どもが作っている鋳鉄の特徴は、溶けた鋳鉄を型に流し込むため、複雑な形のものを作れるというところにあります。主な用途として量産品が多く、工作機械や自動車などに多く使われています。」

「その鋳鉄のなかで、**ねずみ鋳鉄**と呼ばれる一般的な鋳鉄と、当社が主に扱っているダクティル鋳鉄の一番の違いは、ダクティル鋳鉄の方が強度があり、よく延びてしなやかさがあるという点です。ダクティル鋳鉄は振動にも強いので、自動車のエンジンや足回り、モーター部品といった高回転するところに使われています。当社は主に、産業用ロボットや工作機械向けを中心に、年間150〜200品目を製造しています。」

「千葉社長は3代目です。」



アウトドア用のダッチオーブン

「親族内で事業を引き継がれたそうですね。」

「当社は、私の祖父が1946年に創業しました。その後、高度経済成長下のモータリゼーションにより自動車鋳物も手掛けたのですが、自動車向けは大量生産と大規模化が求められていました。そこで規模の小さい当社は、当時は日本で黎明期だった工作機械部品に商機を見いだしました。」

「前社長は私の叔父で、創業者の長男です。私の母は、祖父の長女にあたります。孫の中では、私が一番年長者であったことと、幸い祖父の影響もあり、製業関連の職に就いていたことが経営を引き継いだ理由です。前職は、ロボットなど自動車を扱うシステムインテグレーター（SIer）の技術営業職でした。」

「御社の強みはどこにあるのでしょうか。」

「当社のものづくりは、特定の業種や大きさの製品に偏って

いる訳ではなく、100gの小物から100kgの中物まで、多品種小ロット生産に対応できることです。また、ダクティル鋳鉄製造に40年携わってきた中で、蓄積した知見や寸法精度を0.5ミリの精度を出せる技術力にも自信があります。」

「一方、技術伝承については、作業を標準化したり、現場でメモに残したりすることで、暗黙知の見える化に取り組んでいます。昔のように『見て覚える』といっても、若手に技能が伝えられるものではありません。また、鋳造の世界では一般的に、原材料に端材も入れてリサイクルできるため、『失敗してもまた溶かして作りなおせばよい』という感覚に陥りがちです。そこで、不良になった製品の重量と単価を数値化するなどして、従業員にコスト意識をもってもらうための意識改革



## 「ダクティル鋳鉄」用途を開拓

100gから100kgまで、多品種小ロット対応

鷹島鋳造所 取締役社長 千葉 哲也さん

「も進めてきました」  
「今後、取り組んでいきたいことについて教えてください。」

「新規開拓や、幅広い地域、業種との協業も進めていきたいと考えています。実際に私が入社してからは、建機関係で新規取引先様も獲得しました。弊社の付加価値が生かせる分野で勝負をしつつ、価格競争に巻き込まれるような製品の受注は極力避けていきます。また、アウトドア用のダッチオーブンのOEM供給も始めており、今後はBtoC分野にも広がってまいります。」